



## 2021年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東  
 コード番号 3981 URL https://www.beagle.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部担当役員兼広報IR室長 (氏名) 櫻井 祐一 (TEL) 03-6706-4000  
 定時株主総会開催予定日 2022年3月29日 配当支払開始予定日 2022年3月30日  
 有価証券報告書提出予定日 2022年3月31日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年12月期の連結業績 (2021年1月1日～2021年12月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期	18,637	50.6	1,345	21.8	1,202	25.4	444	△1.7
2020年12月期	12,378	—	1,104	—	959	—	452	—

(注) 包括利益 2021年12月期 444百万円 (△1.7%) 2020年12月期 452百万円 (—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年12月期	74.81	73.92	8.2	6.1	7.2
2020年12月期	76.51	75.30	8.7	4.8	8.9

(参考) 持分法投資損益 2021年12月期 一百万円 2020年12月期 一百万円

(注) 第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年12月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。また、当社は2020年12月第4四半期から連結財務諸表を作成しているため、2020年12月期の対前期増減率は記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期	19,458	5,671	29.1	951.73
2020年12月期	20,036	5,206	26.0	878.19

(参考) 自己資本 2021年12月期 5,671百万円 2020年12月期 5,206百万円

(注) 第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年12月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年12月期	1,574	△330	△929	3,545
2020年12月期	901	△3,938	4,302	3,230

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2021年12月期	—	0.00	—	8.00	8.00	47	10.7	0.9
2022年12月期(予想)	—	0.00	—	12.00	12.00		10.3	

## 3. 2022年12月期の連結業績予想 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,224	△0.3	719	8.9	655	11.5	312	31.9	52.50
通期	18,791	0.8	1,536	14.2	1,416	17.8	695	56.3	116.97

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期	6,202,522株	2020年12月期	6,175,661株
② 期末自己株式数	2021年12月期	243,228株	2020年12月期	246,723株
③ 期中平均株式数	2021年12月期	5,947,296株	2020年12月期	5,914,179株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2022年2月15日（火）に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(表示方法の変更) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
(1株当たり情報) .....	14
(重要な後発事象) .....	14

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における日本経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のワクチン接種率が上昇していることに加え、感染拡大防止対策が行われる中で持ち直しが続いております。一方で、複数回にわたり首都圏やその他地域に緊急事態宣言が発令され、新たな変異株の感染も広まる等先行きは依然として不透明な状況にあります。

そのような状況下、コミックを中心とする電子書籍市場は、ユーザーの拡大及びユーザー平均購入量の増加が続き、前年は大きく市場が成長いたしました。今後も電子書籍及び電子コミック市場の拡大が続くことが予想されております。（出典：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2021」）

しかしながら、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況が落ち着くにつれ、外出自粛の反動も現れはじめております。また、電子書籍のビジネスモデルの多様化や成熟によって電子書籍市場が徐々に飽和していくことも予想されます。なお、海賊版サイトによる市場への影響は拡大を続けておりますが、当社グループといたしましては、今後も注意深く情報収集を継続するとともに関連業界団体と連携のうえ、しかるべき対応を取ってまいります。

このような市場環境の中で、プラットフォームセグメントにおいては規模拡大とブランド構築のための積極的な投資、コンテンツセグメントにおいては継続的なデジタルシフトによる安定的な利益創出を実行しました。

更に、コンテンツプロデュースカンパニーとしての機能強化、成長加速のため、2021年11月に、得意領域の異なる日本テレビ放送網株式会社との資本業務提携契約を締結いたしました。

なお、当社グループでは引き続き当連結会計年度を通じて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の情勢に鑑み、お取引先の皆様、従業員並びに関係者の皆様の安全確保と感染予防・拡大防止に向けた対応を進めるとともに、事業成長との両立に努めてまいりました。

このような経営環境において、通期累計で過去最高売上を更新しております。

この結果、当連結会計年度の売上高は18,637,202千円（前年同期比50.6%増）、営業利益は1,345,394千円（前年同期比21.8%増）、経常利益は1,202,335千円（前年同期比25.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は444,923千円（前年同期比1.7%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスであるコミック配信サービス「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お得感を訴求するキャンペーンやブランディング活動に注力しました。「まんが王国」サイト内で展開しているポイント購入と消費の両方であわせて毎日最大50%還元されるポイントプログラムの常時実施だけでなく、お得感を訴求や幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。また、ユーザーの興味・関心を促進し、サイトへの流入を促す広告宣伝活動も積極的に行っております。このように「まんが王国」は、お得感No.1（2020年10月から11月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査で最もお得に感じるサービス第1位を獲得。）のコミック配信サービスとしてサイト内外で様々な企画を推進いたしました。

また、韓国発のタテヨミコミックレーベル「HCコミック」の日本初独占先行配信のほか、グループ会社である株式会社ぶんか社の「BKコミックス」作品の先行配信や日本テレビ放送網株式会社が運営する2.5次元俳優のYouTubeチャンネル「ぼくたちのあそびば」のコミカライズ企画を実施する等コンテンツの拡充と差別化を推進しております。

この結果「まんが王国」は2021年9月に累計ダウンロード数が16億冊を突破、会員登録数が同月に550万人、2022年2月には600万人を突破いたしました。また、外出自粛の特需は一段落いたしました。

小説投稿サービス「ノベルバ」においては、引き続き投稿作家から商業作家へのデビューを支援するだけでなく、グループ間シナジーの創出にも取り組んでおります。第1回「ノベルバノベルズ登竜門」（投稿小説コンテスト）ではぶんか社のBKコミックスにてコミカライズが確約された「BKコミックス特別賞」を選出いたしました。加えて、2021年4月より株式会社パブリッシングリンクと共同で開催した「恋愛小説コンテスト」では、最優秀賞作品の株式会社竹書房での書籍化確約に加え、「まんが王国」及びぶんか社での電子コミック化を確約したコミカライズ賞を選出いたしました。

IPプロデュースにおいては、配信中のスマートフォンゲーム「無職転生～ゲームになっても本気だす～」にて、収益改善に向け運営体制の見直しを行い、同年10月に開発・運営会社の移管を完了いたしました。

また、通販サイト「FUNDIY STORE」では、2021年11月にグループ会社である株式会社海王社の人気レーベル「GUSH COMICS」、「&.Emo comics」のグッズを販売する等グループ間シナジーの促進にも努めております。

これらの結果、当セグメントの売上高は12,365,762千円（前年同期比11.4%増）、営業利益は154,276千円（前年同期比82.8%減）となりました。なお、「コミックevery」 「RenCa:A/N（レンカ アルバニグル）」においてはサービス終了、「ノベルバ」 「無職転生～ゲームになっても本気だす～」においては将来の回収可能性が見込まれないことから132,130千円の減損損失を計上いたしました。

#### (コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、引き続き収益性の高いデジタルコンテンツが売上高前年比29%増と高成長を維持し、2021年12月末時点でデジタル比率61%と好調な業績を牽引しております。

また紙出版においても、コミックスで女性向け作品を中心に77タイトルの重版を積み上げ、定期誌も引き続きクルマジャンルを中心に堅調に推移しております。

ジャンルの拡充を目的にライトノベル事業を新たに立ち上げ編集・制作活動と並行してライトノベル及びコミカライズ作品を複数配信開始するほか、新たに女性ライトユーザーをターゲットとしたデジタルコミック誌として「PRIMOプリモ」「COMICヤミツキ」を創刊する等、精力的に展開いたしました。

なお、2022年1月には人気作品「義母と娘のブルース」を原作とした新年スペシャルドラマや、スマホ向けコミックサイト「マンガよもんが」にて連載中の「部長と社畜の恋はもどかしい」を原作としたテレビドラマが放送開始されました。

これらの結果、当セグメントの売上高は6,440,255千円（前年同期比387.1%増）、営業利益は1,192,868千円（前年同期比465.2%増）となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

### (資産)

当連結会計年度末における資産合計は19,458,414千円となり、前連結会計年度末に比べ577,704千円減少しました。

流動資産は8,175,916千円となり、前連結会計年度末に比べ322,644千円増加しました。これは主に、受取手形及び売掛金が61,903千円減少した一方で、現金及び預金が314,954千円、未収還付法人税等が98,976千円増加したことによるものです。

固定資産は11,282,497千円となり、前連結会計年度末に比べ900,348千円減少しました。これは主に、無形固定資産が902,265千円減少したことによるものです。

### (負債)

当連結会計年度末における負債合計は13,786,767千円となり、前連結会計年度末に比べ1,042,646千円減少しました。

流動負債は8,036,129千円となり、前連結会計年度末に比べ196,846千円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が113,773千円、繰延収益が41,022千円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が120,000千円、未払法人税等が108,479千円、返金負債が166,650千円減少したことによるものです。

固定負債は5,750,637千円となり、前連結会計年度末に比べ845,800千円減少しました。これは主に、長期借入金が820,000千円減少したことによるものです。

### (純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は5,671,647千円となり、前連結会計年度末に比べ464,942千円増加しました。これは主に、利益剰余金が444,646千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、29.1%となりました。

### (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は3,545,290千円となり、前連結会計年度末に比べ314,954千円増加しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動においては、税金等調整前当期純利益1,077,156千円から、主な加算項目として、減価償却費503,514千円、減損損失132,130千円、のれん償却額638,901千円、支払利息139,350千円、売上債権の減少額61,903千円、仕入債務の増加額113,773千円等がありました。これに対して主な減算項目として、返金負債の減少額166,650千円、利息の支払額139,312千円、法人税等の支払額855,170千円等がありました。

この結果、獲得した資金は1,574,214千円（前年同期は901,524千円の獲得）となりました。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動においては、主な資金減少要因として、無形固定資産の取得による支出338,835千円等がありました。

この結果、使用した資金は330,127千円（前年同期は3,938,102千円の使用）となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動においては、主な資金減少要因として、長期借入金の返済による支出940,000千円等がありました。

この結果、使用した資金は929,132千円(前年同期は4,302,386千円の獲得)となりました。

### (4) 今後の見通し

当社グループは、「固定観念にとらわれる事なく、新しい発見と進歩を求め続ける」という理念に基づき、「コミック配信会社からコンテンツプロデュースカンパニーへ」という中期経営計画を掲げ、実行してまいりました。

今後はコミックビジネスを強みにメディアミックス作品を創出していくべく、コンテンツプロデュースカンパニーとしての更なる成長を目指してまいります。

プラットフォームセグメントにおいては、グループ成長を支える基盤としての「まんが王国」の安定成長に注力いたします。引き続き、新規ユーザー獲得のため効率的なプロモーションを実施し、「お徳感No.1」戦略により課金意欲の高いロイヤルカスタマーへの育成を行います。また、「まんが王国だから読める」作品の拡充によって差別化を図ってまいります。小説投稿サービス「ノベルパ」においては、投稿作品を原作としたコミカライズ・メディアミックス展開を推進し、当社グループ間シナジー創出に取り組みます。

コンテンツセグメントにおいては、デジタル売上の成長に注力するとともに、出版売上ではより採算を重視した初版部数設定及び配本管理を徹底いたします。強みである編集体制については、人員補強、人材育成を強化し、主力ジャンルである女性向けコンテンツの更なる成長に努めるとともに、親和性の高い新ジャンルにも領域を拡大することで成長を加速させてまいります。

以上を踏まえ、2022年12月期の通期業績見通しについては、売上高は18,791百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は1,536百万円（前年同期比14.2%増）、経常利益は1,416百万円（前年同期比17.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は695百万円（前年同期比56.3%増）を予想しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際財務報告基準（IFRS）の適用時期等につきまして、我が国における適用動向を注目している状況であり、今後の適用については未定であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,230,336	3,545,290
受取手形及び売掛金	4,433,602	4,371,699
商品及び製品	76,524	54,469
貯蔵品	1,265	1,058
前渡金	10,438	398
前払費用	36,506	69,083
未収入金	51,805	45,552
未収還付法人税等	—	98,976
その他	42,314	11,373
貸倒引当金	△29,522	△21,985
流動資産合計	7,853,272	8,175,916
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	48,838	62,827
工具、器具及び備品	185,683	145,112
減価償却累計額	△188,816	△158,556
減損損失累計額	△9,426	△1,602
有形固定資産合計	50,941	62,443
無形固定資産		
のれん	10,273,221	9,589,618
ソフトウェア	262,490	225,098
コンテンツ資産	296,127	435,148
ソフトウェア仮勘定	3,742	1,847
コンテンツ資産仮勘定	164,586	3,574
著作権	904,666	747,333
その他	1,382	1,332
無形固定資産合計	11,906,218	11,003,953
投資その他の資産		
敷金及び保証金	148,955	108,492
繰延税金資産	58,170	88,374
その他	18,560	19,234
投資その他の資産合計	225,686	216,101
固定資産合計	12,182,846	11,282,497
資産合計	20,036,118	19,458,414

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当連結会計年度 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,943,123	3,056,896
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	940,000	820,000
未払金	347,247	357,802
未払費用	163,321	187,812
未払法人税等	442,286	333,806
未払消費税等	104,818	92,896
繰延収益	631,739	672,762
返金負債	596,896	430,246
預り金	28,240	38,554
その他	35,300	45,350
流動負債合計	8,232,976	8,036,129
固定負債		
長期借入金	6,245,000	5,425,000
繰延税金負債	351,437	325,637
固定負債合計	6,596,437	5,750,637
負債合計	14,829,413	13,786,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,875,831	1,883,373
資本剰余金	1,875,331	1,882,873
利益剰余金	1,823,710	2,268,356
自己株式	△368,169	△362,955
株主資本合計	5,206,704	5,671,647
純資産合計	5,206,704	5,671,647
負債純資産合計	20,036,118	19,458,414

## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
売上高	12,378,124	18,637,202
売上原価	7,710,219	12,124,343
売上総利益	4,667,904	6,512,858
販売費及び一般管理費	3,563,436	5,167,463
営業利益	1,104,468	1,345,394
営業外収益		
受取利息	16	26
受取配当金	68	87
受取返戻金	14,834	3,476
助成金収入	2,423	362
還付金収入	—	1,002
その他	54	427
営業外収益合計	17,397	5,381
営業外費用		
支払利息	38,001	139,350
融資手数料	116,416	4,206
消費税等調整額	6,796	3,808
その他	1,572	1,075
営業外費用合計	162,786	148,441
経常利益	959,079	1,202,335
特別利益		
固定資産売却益	—	13,500
新株予約権戻入益	486	—
特別利益合計	486	13,500
特別損失		
減損損失	126,869	132,130
損害賠償金	—	6,390
その他	196	157
特別損失合計	127,066	138,679
税金等調整前当期純利益	832,498	1,077,156
法人税、住民税及び事業税	402,719	656,998
法人税等調整額	△22,705	△24,766
法人税等合計	380,013	632,232
当期純利益	452,485	444,923
親会社株主に帰属する当期純利益	452,485	444,923

## 連結包括利益計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
当期純利益	452,485	444,923
包括利益	452,485	444,923
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	452,485	444,923

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,868,930	1,868,430	1,371,988	△373,392	4,735,957
当期変動額					
新株の発行	6,901	6,901			13,802
親会社株主に帰属する 当期純利益			452,485		452,485
自己株式の取得					—
自己株式の処分			△763	5,222	4,459
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	6,901	6,901	451,721	5,222	470,747
当期末残高	1,875,831	1,875,331	1,823,710	△368,169	5,206,704

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	486	4,736,443
当期変動額		
新株の発行		13,802
親会社株主に帰属する 当期純利益		452,485
自己株式の取得		—
自己株式の処分		4,459
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△486	△486
当期変動額合計	△486	470,261
当期末残高	—	5,206,704

当連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,875,831	1,875,331	1,823,710	△368,169	5,206,704
当期変動額					
新株の発行	7,541	7,541			15,083
親会社株主に帰属する 当期純利益			444,923		444,923
自己株式の取得				△9	△9
自己株式の処分			△277	5,222	4,945
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	7,541	7,541	444,646	5,213	464,942
当期末残高	1,883,373	1,882,873	2,268,356	△362,955	5,671,647

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	—	5,206,704
当期変動額		
新株の発行		15,083
親会社株主に帰属する 当期純利益		444,923
自己株式の取得		△9
自己株式の処分		4,945
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—
当期変動額合計	—	464,942
当期末残高	—	5,671,647

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	832,498	1,077,156
減価償却費	285,980	503,514
減損損失	126,869	132,130
のれん償却額	378,837	638,901
支払利息	38,001	139,350
融資手数料	116,416	4,206
売上債権の増減額 (△は増加)	△649,084	61,903
仕入債務の増減額 (△は減少)	659,382	113,773
立替金の増減額 (△は増加)	69,322	722
未払金の増減額 (△は減少)	△230,482	10,895
未払費用の増減額 (△は減少)	△237,057	24,491
繰延収益の増減額 (△は減少)	△78,452	41,022
返金負債の増減額 (△は減少)	37,556	△166,650
未払又は未収消費税等の増減額	△44,473	△11,922
その他	△38,816	△910
小計	1,266,498	2,568,583
利息及び配当金の受取額	85	113
利息の支払額	△37,236	△139,312
法人税等の支払額	△327,823	△855,170
営業活動によるキャッシュ・フロー	901,524	1,574,214
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△8,943	△32,104
無形固定資産の取得による支出	△408,581	△338,835
敷金及び保証金の差入による支出	△41,054	—
敷金及び保証金の返還による収入	—	41,054
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△3,479,524	—
その他	—	△241
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,938,102	△330,127
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,000,000	—
長期借入れによる収入	7,000,000	—
長期借入金の返済による支出	△4,595,000	△940,000
融資手数料の支払による支出	△116,416	△4,206
株式の発行による収入	13,802	15,083
自己株式の取得による支出	—	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,302,386	△929,132
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,265,808	314,954
現金及び現金同等物の期首残高	1,964,528	3,230,336
現金及び現金同等物の期末残高	3,230,336	3,545,290

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

連結キャッシュ・フロー計算書関係

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「返金負債の増減額(△は減少)」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示しておりました△1,259千円は、「返金負債の増減額(△は減少)」37,556千円、「その他」△38,816千円として組み替えております。

(セグメント情報等)

### 【セグメント情報】

#### 1 報告セグメントの概要

##### (1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社グループのうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は、事業種類のセグメントから構成されており、「プラットフォームセグメント」及び「コンテンツセグメント」を報告セグメントとしております。

##### (2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「プラットフォームセグメント」は、当社の既存事業であるまんが王国を中心としたユーザー課金ビジネス及びその付帯ビジネス等で構成されております。

「コンテンツセグメント」は、当社の子会社であるぶんか社グループの既存事業を中心とした電子書籍、出版及びそれらの付帯ビジネス等で構成されております。

#### 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価額に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	連結財務諸表 計上額(注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,102,481	1,275,643	12,378,124	—	12,378,124
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	46,566	46,566	△46,566	—
計	11,102,481	1,322,209	12,424,690	△46,566	12,378,124
セグメント利益	894,533	211,068	1,105,601	△1,133	1,104,468
セグメント資産	11,582,169	16,675,839	28,258,009	△8,221,890	20,036,118
その他の項目					
減価償却費	240,721	45,258	285,980	—	285,980
のれん償却額	292,149	86,688	378,837	—	378,837
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	712,300	3,121	715,421	△160	715,261

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,133千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	連結財務諸表 計上額(注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,365,762	6,271,440	18,637,202	—	18,637,202
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	168,815	168,815	△168,815	—
計	12,365,762	6,440,255	18,806,017	△168,815	18,637,202
セグメント利益	154,276	1,192,868	1,347,144	△1,749	1,345,394
セグメント資産	10,420,554	17,093,725	27,514,280	△8,055,865	19,458,414
その他の項目					
減価償却費	324,400	179,233	503,634	△120	503,514
のれん償却額	292,149	346,752	638,901	—	638,901
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	△389,065	△501,578	△890,643	△119	△890,763

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,749千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
1株当たり純資産額	878.19円	951.73円
1株当たり当期純利益	76.51円	74.81円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	75.30円	73.92円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	当連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	452,485	444,923
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	452,485	444,923
普通株式の期中平均株式数(株)	5,914,179	5,947,296
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	94,662	71,794
(うち新株予約権(株))	(94,662)	(71,794)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。